

こんにちは 町長です

～地域公共交通を考える～



小鹿野町町民の主な移動交通手段は個人の自家用車に頼っているのが現状です。令和4年5月13日より道路交通法の改正が行われ、過去3年間に一定以上の交通違反歴のある

75歳以上のドライバーを対象に、免許証更新時の運転技能検査が義務化されました。今後ますます運転免許証の返還をする高齢運転者が増えてくるのではないかと思います。

さて、小鹿野町の地域公共交通は、バスが主体で町営バスが西武秩父線(両神温泉薬師の湯～役場小鹿野庁舎～般若・長留～西武秩父駅 5便/日)、日向大谷・三峰口線(日向大谷～両神温泉薬師の湯～三峰口駅 9便/日)、白井差線(白井差～両神温泉薬師の湯～役場小鹿野庁舎 7便/日)の3路線、西武観光バスが小鹿野線(小鹿野車庫～役場小鹿野庁舎～泉田～西武秩父駅 18便/日)、倉尾線(長沢～上吉田～役場小鹿野庁舎 5便/日)、志賀坂線(坂本～三山・飯田～役場小鹿野役場庁舎 5便/日)の3路線となっています。その他 乗合タクシーが小鹿野地区・長若地区と両神温泉薬師の湯、原医院、堤医院、特別養護老人ホーム花菖蒲・両神、小鹿野役場両神庁舎を運行し、バス路線がないところを中心にカバーしています。

また、小鹿野町社会福祉協議会で実施している福祉有償運送事業(ハッピーパートナー)も介護保険法の要支援等の方や身体障害者手帳をお持ちの方などの移動手段としての機能を果たしています。

町営バス3路線について、令和2年度の総事業費は5,600万円、収入は運賃収入が約550万円で、県補助金約1,740万円、町負担金約3,310万円(町営バス1台購入費含む)という経営状況です。また、西武観光バス3路線について、総事業費は約1億770万円、収入は運賃収入が約4,200万円、町補助金約3,000万円(対象は志賀坂線、倉尾線の2路線)、残りは西武観光バスの負担という経営状況です。乗合タクシーは、丸通タクシーに委託して事業を実施していますが、令和2年度の運賃収入が約2,700円、国庫補助金約243万円、町補助金約748万円となっています。以上のようにバス路線、乗合タクシーは国、県、町の補助金等で維持されているのが現状です。

公共交通は高齢者等の移動手段としての役割が大きく、志賀坂線では小学生の通学利用としても利用されています。また、日向大谷・三峰口線などはダリア園や両神山の観光利用も多くなっています。いわゆる交通弱者の移動手段を確保することは町の責務であり、しっかり守っていかねばならないと存じます。ただ、あまりに大きな財政負担は、今後町の将来を考えると負担に耐えきれない恐れがございます。

町では、本年度内に公共交通に係る民間事業者、行政関係者等による公共交通協議会を立ち上げ、来年度中に町の将来を見通した公共交通計画を策定したいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎